

査読論文

中国東北地方における「満洲国」の 農業遺産接収過程と水稻品種の変遷 — 中国共産党による接収と再建を中心に —

湯川真樹江*

要 旨

南満洲鉄道株式会社農事試験場では1914年より水稻の品種開発を行ってきた。当初は現地に適する品種の発見が主であったが、1930年代には品種の人工交配を行って、「改良種」が誕生した。満洲国は日本からもちこまれた日本種や「改良種」を奨励品種として決定し、普及を行った。1945年満洲国は崩壊し、国共内戦の混乱の中、農事試験場は破壊され、機材は略奪された。中国共産党は満洲国の農事試験場を接収し、各地に散在した機材や人材をあつめ、1948年ごろより本格的に再建活動を開始した。日本人留用技術員、東北地方の中国人技術員、そして関内からの中国人技術員が研究業務に加わったため、東北行政委員会農業部は満洲国期の試験用語と関内の試験用語を反映させて、新たに統一した用語を作成した。また、東北各地の農事試験場では満洲国期の奨励品種を繁殖させ、各地に「良種」として推奨し、普及活動を行った。品種開発では、満洲国期の奨励品種を基に人工交配を行い、1953年ごろより新たな品種を誕生させた。新たな品種は、満洲国の奨励品種に交代するものとして推奨されていった。

キーワード

南満洲鉄道株式会社農事試験場、満洲国、東北行政委員会、接収、水稻品種開発

はじめに

本稿の目的は、「満洲国」崩壊（1945年）以前的水稻品種（日本種と「改良種」）が、中国共産党によって農事試験場が再建される過程で、どのように利用されたかを明らかにすることである。日本種とは満洲国の崩壊以前に日本から中国東北地方に持ち込まれた品種を指し、「改良種」とは南満洲鉄道株式会社農事試験場（以下、南満洲鉄道株式会社を満鉄、同農事試験場を満鉄農事試験場と表記する）において育成された品種を指す²。

* 執筆者：湯川真樹江
所属機関：慶應義塾大学大学院博士課程
連絡先：〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
E-mail：yukawamakie12@yahoo.co.jp

これまで、中国東北地方における水稻品種の栽培状況に関する研究は1945年までを区切りとしたものがほとんどであった。中でも衣保中氏、金穎氏、朴敬玉氏の研究が代表的なものであり、これらの研究は専ら朝鮮人農民に着目して水稻栽培状況が論じられてきた³。しかし栽培品種の変遷について言えば、満鉄農事試験場における品種開発も極めて重要な位置を占めている。そのため筆者は日本人が研究・開発を行った満鉄農事試験場の業務(1913年～)に注目し、試験場で生まれた「改良種」がそれまでの栽培状況にどのような影響を与えたのかについて、試験場発行の資料と技師の回想録を用いながら「改良種」の性質を論じた。そこでは、満鉄農事試験場において生み出された興国、興亜、弥栄等の「改良種」に耐寒性がそなわっていたために中北部(中国東北地方における)の寒冷地帯の栽培がより強化され、満洲国では積極的に推奨されていたことを明らかにした⁴。

満鉄農事試験場の業務全般について分析をしたものには、山本晴彦氏の研究がある⁵。山本氏は、満洲国立公主嶺農事試験場(元満鉄農事試験場公主嶺本場)当時の業務体系と、後身の東北行政委員会公主嶺農事試験場の業務体系に類似性がみられた点を指摘している。また、満洲国立公主嶺農事試験場に勤務していた日本人技術者の出身校を明らかにしながら、一部の技術者が1945年以降も試験場にとどまり、研究を続けていたことを示した。加えて、東北農業科学研究所⁶の初期の雑誌に満鉄農事試験場や満洲国の農事試験場の研究成果が引用されていることに触れ、研究成果や分析手法が「戦後中国」の農業試験研究に継承され、影響を与えたと分析した。管見の限り、接収の前後において農事試験場に連続性がみられたことについて言及したのは山本氏の研究のみである。しかしこの研究においては、公主嶺農事試験場全体の組織状況に着目し分析が行われているため、水稻品種等の具体的な史料を提示した上でいかに研究が継続されていったのかについては明らかにされていない。そのため接収後の詳細な研究状況についてはいまだ未解明のままである。

そこで本稿では水稻品種に着目して、接収や、再建時の具体的な状況を明らかにする。このような作業によって接収機関の性質をその研究内容から理解し、東北地方における水稻品種の変遷過程を明らかにすることができると思う。それは満洲国期に奨励された水稻品種が接収後の技術者によってどう扱われたのかを知ることもなる。本稿では公主嶺農事試験場(後身は東北農業科学研究所、現在は吉林省農業科学院)の機関誌と東北人民政府の雑誌、および東北地方の技術者らによって編纂された回想録を主に使用する⁷。また、再建活動が一段落して新たな品種が誕生し始めるまでの約10年間を対象とする⁸。

1 1945年以前の農事試験場における水稻品種開発

満鉄は中国東北地方(以下、1945年以前の名称として満洲を用いる)への侵略活動の一環として、1913年に満洲中部の公主嶺に産業試験場、翌年に満洲最南部の熊岳城に産業試験場熊岳

城分場を設立した⁹。設立当初は寒冷気候にある満洲において栽培可能な水稲品種を探すことが主な目的であったため、満鉄農事試験場の技師たちは日本種を内地より取り寄せ、適否試験を行っていた。当時満洲ではすでに朝鮮人農民により朝鮮在来種が栽培されていたが、技師たちは朝鮮在来種に対して研究を行わず、専ら日本種に対して研究を行っていた。しかし満鉄農事試験場では内地の農学者や農商務省官僚らにより、満洲での水稲の栽培は内地の米作農家を圧迫するとの指摘を受けていたため、試験場における水稲の試験開発は小規模なものであった。1918年に内地で米騒動や凶作が起きると、満鉄農事試験場では日本の米穀経済を補填する目的を満鉄発行の資料¹⁰に示し、1922年には熊岳城分場の水稲試験地を27,074平方メートル拡大し、1928年にはさらに1,639平方メートル拡大している¹¹。満鉄農事試験場では日本より持ち込まれた亀ノ尾と早生大野の適否試験と純系分離を行い、収量の高いものを選択、育成し、それぞれ万年、大原と名付けた。満鉄農事試験場はこれらの品種を「優良品種」として付近の農家に配布した。

1928年熊岳城分場の小島清重郎技師は、満洲で初めて水稲人工交配試験を行った。小島技師によると、公主嶺本場の上司から満洲での水稲試験の規模を抑えるように言われていたため、当初は「非公式」にて人工交配を行っていたという。その後試験は成功をおさめ、1934年より満洲中北部向けの品種、興国、興亜、弥栄、国主などが生み出された。これらの品種は肥料の多投に耐えうる耐肥性と耐病性、そして耐寒性をそなえていた。

1932年に満洲国が成立、1936年に満洲開拓移民推進計画が決議され、翌年に満洲国産業五カ年計画が実施されると、興国、興亜、弥栄、国主などの「改良種」は他の優良な日本種とともに奨励品種となり、積極的に普及の対象となった。1937年に日中戦争が勃発し、満洲の食糧後背地としての役割が明確になるにつれて、満洲国ではいかに奨励品種を開拓民に効率よく栽培させるかが重要視された¹²。

1938年満鉄農事試験場は満洲国に移管され、満洲国立農事試験場と改称された。公主嶺、熊岳城のほかに、哈爾濱(ハルビン)、克山、佳木斯(ジャムス)等の満洲北部にも農事試験場が設立され、新品種の育成が体系的に行われるようになった。1941年には農事試験場官制の改正によって満洲国立農事試験場は公主嶺を本場として克山、佳木斯、熊岳城等の9つの試験場が支場として設定された¹³。

1943年の史料からは、日満農政研究会が各地の状況を調査し、「改良種」や日本種の普及予測を立てていたことがわかる【表1】。ここでは朝鮮在来種は普及の対象となっていなかった。満洲国ではこれらの品種を推奨し、計画的に収穫物を収奪することを目指していた。各地の農民は興農合作社等を通じて奨励品種を受け取り、栽培した。しかし史料の不足により、その後の経過については更なる資料の発掘と調査が必要である。1945年、日本の敗戦により奨励品種の普及活動は停止し、満洲国は崩壊した。

【表1】品種の批評と普及の見込

品種名	地方ニ於ケル批評	将来ノ見込
陸羽一三二号	多収米質良好ニシテ好評	年々増加シツ、アリ 最南部地帯ノ基本品種トシテ有望
万年	稍々好評	現在相当普及シテ居ルガ将来陸羽一三二号ニ替ルト思惟セラル
水稻農林一号	多収米質良好ニシテ好評	現在僅カニ普及シテ居ルニ過ナイガ年々増加ノ傾向ニアリ南部地帯中南部ノ基本品種トシテ有望
亀ノ尾三号	稍々好評	僅カニ普及ス
嘉笠	好評	南部地帯ノ中北部ニ相当普及シテ居ルガ此ノ地帯ニ品種少ク優良品種ガ希望セラル
秀禾	好評	僅カニ普及シ居ル程度ニシテ南部地帯ノ在来京租ニ替ル品種トシテ有望
田泰	好評	好評ニシテ現在中部地帯ニ相当普及シテ居ルガ将来興亜ニ替ルモノト思惟セラル
小田代五号	間島省ノ好評	間島省ノ奨励品種、省内ノ晩稲ニシテ作付面積ノ大部ヲ占メテ居ル
興亜	稈強剛ニシテ多収好評	中部地帯ノ基本品種トシテ有望 田泰ニ替ル品種ニシテ漸次増加シツ、アリ
青森五号	無芒多収 稲熱病ニ強ク好評	中部地帯ノ中生種トシテ極メテ有望 年々増加ノ傾向ニアル
弥栄	米質良ク多収好評	北部地帯ノ基本品種トシテ有望 年々急激ニ増加シ在来、北海(赤毛)ト替リツ、アリ
興国	多収稲熱病ニ強ク好評	弥栄ト同地帯ニ有望 弥栄程デハナイガ増加シツ、アリ肥沃地ニヨシ
国主	稲熱病ニ強ク多収好評ナルモ短程ナルタメ藁加工ニ不適當ナル点好評ナラズ	北部地帯ノ早生種トシテ、特ニ肥沃地ニ於テ多収、能力ヲ發揮ス耐病性強ク倒伏難北滿ノ新開墾地ニ好適ス
富国	好評 短程ナル点国主ト同ジ	将来普及スル
坊主六号	好評	最北部地帯ノ南部好適年々増加シツ、アリ
走坊主一号	好評	最北部地帯ノ中北部ニ適ス増加シツ、アリ
紅糯一号	多収餅食味良ク好評	最南部地帯晩生種トシテ有望
今田糯	好評	最南部地帯中生種トシテ有望
平六糯	好評	南部地帯帯晩生種トシテ有望
青森糯五号	好評	南部地帯中生種トシテ有望
松本糯	多収餅食味良ク好評	中部地帯ノ中生種、北部地帯ノ晩生種、現在相当普及シテ居ルガ将来極メテ有望
		北部並ニ最北部地帯ニ適スル糯品種ナシ育成ヲ要ス

(出典) 日滿農政研究会新京事務局『滿洲ニ於ケル水稻品種育成増殖並ニ普及ニ関スル研究』1943年、7-9頁。

2 満洲国立農事試験場の破壊と接収、再建—1945年以後の状況

日本敗戦後、中ソ友好同盟条約により、ソ連は満洲国の鉄道等の遺産を中華民国へ移譲することを約束していたが、ソ連軍は接収した各種機材を本国へと輸送した。熊岳城に居住した日本人により結成された熊岳城会の回想録によると、熊岳城では1945年8月25日にソ連軍が熊岳城に到着し、31日に略奪暴行を始めた。9月6日にソ連軍が南下のため退去し、8日には中国民衆の暴動が発生、それに伴う略奪が起きた。11月中旬に中共軍が入城し、1946年1月4日に撤退した後、5日に国民党軍が入城し、15日に撤退した。25日にソ連兵が日本人に暴行を働き、3月14日にソ連軍が撤退した。4月1日、中共政府は農事試験場の経営を一部開始させた。10月21日に国民党軍入城の知らせを受け、22日に中共軍は日本人技術者と独身女子40名を同行させた。25日に国民党軍が入城した¹⁴。

また公主嶺に居住していた日本人らの回想録によると、公主嶺では1945年8月23日にソ連軍が入城した¹⁵。1946年3月13日、四平方面のソ連軍が国民党軍に行政を引き継ぎ、撤退すると同時に中共軍の攻撃が始まった。1947年5月19日、国民党軍が撤退し、中共軍が公主嶺に入るも、6月27日に国民党軍が再び入城した。初冬、中共軍が入城するが、1948年1月24日に退去した。公主嶺は激しい砲撃戦の後、再び中共軍下に入り、秋に中共軍は全面勝利をした¹⁶。

上記の内容は回想録という性質上、正確性について一定の留保をつける必要があるものの、東北地方ではソ連軍、国民党軍、中共軍が進駐をくり返し、動乱の中で略奪が頻発したことが確認できる。

次に、中共側の記録による各地の農事試験場の接収状況についてみてみたい。

【表2】農事試験場再建の経過

1946年11月	東北財經辦事処が唐川と陳重を派遣し、満洲国立佳木斯農事試験場の跡地を接収する。東北財經辦事処佳木斯農事試験場を建設する。
1947年 4月	東北財經辦事処佳木斯農事試験場は東北行政委員会農業処に編入され、東北行政委員会佳木斯農事試験場となる。場長に陳凌風、副場長に陳重が就任する。
10月	東北行政委員会農業処は陳凌風を派遣し、哈爾濱家畜防疫所を建設、陳重を薩爾図種畜場に派遣し、建設する。佳木斯農事試験場は朱明凱により管理される。
1948年 6月	黒龍江省建設庁は克山にて農事試験場を建設し、場長に周簡、副場長に姜岩が就任する。同時に農業専科学校を建設する。吉林省は九站に農事試験場を建設し、第1代場長に宋長濂が、第2代場長に徐国良が就任する。東北行政委員会農林部は崔立群を公主嶺に派遣し公主嶺農事試験場を接収する。
7月	安徽省は蛤蟆塘農事試験場を建設し、場長に曹玉琨が就任する。
秋	遼寧省は満洲国立熊岳城農事試験場跡地を接収し、遼寧省熊岳農事試験場を建設する。第1代場長に高同照、第2代場長に沈流が就任する。

9月	東北行政委員会佳木斯農事試験場は哈爾濱に移り、跡地は合江省農業庁により接収、合江省佳木斯農事試験場を建設する。場長に高大鈞が就任する。克山農事試験場は農業専科学校内に移って業務を行う。
11月	東北地方の全面的「解放」により、東北行政委員会農業部は瀋陽に移る。瀋陽では農牧業科学技術員を募集し採用する。技術員は東北行政人員訓練班にて学んだ後、各地に送られ業務に就いた。
12月～1月	東北行政委員会農業部は唐川を公主嶺農事試験場場長に任命する。
1949年 1月	唐川は農牧業科学技術員20数名を率いて瀋陽から公主嶺に赴く。東北行政委員会農業部公主嶺農事試験場が正式に成立する。場長に唐川が就任する。
1月～2月	佳木斯農事試験場のうち哈爾濱に移った部門を公主嶺農事試験場と合併させる。科学技術員は哈爾濱より公主嶺に到着する。試験器材、図書等も哈爾濱から持ち込まれる。
2月	東北行政委員会は「關於建立各級農事試験場の方針」を定め、「關於各級農事試験場工作任务及業務計画的決議」を採択する。「第1届試験場場長会議」にて各級試験場の方針と任務、及び業務分担が決められる。
冬	蛤蟆塘農事試験場は鳳城県に移る。
3月	東北行政委員会農業部公主嶺農事試験場は「第1届農業試験研究工作会议」を開催する。
4月	東北行政委員会農業部は『東北農業』と、『農試通訊』(内部刊行物)を創刊する。
6月	東北行政委員会農業部は「第1届特産会議」を開催する。
7月	東北行政委員会農業部は「第1届農業技術推广工作会议」を開催する。会議では満洲国期の試験結果と当時の実際状況をあわせ、主要植物の普及品種と普及区域を討論した。東北行政委員会農業部は翟林を公主嶺農事試験場副場長に任命する。
7月～8月	南京農学院参観団10余名の専門家、教授(団長は金善宝院長)が公主嶺農事試験場に来て参観する。
8月	東北行政委員会農業部公主嶺農事試験場は東北人民政府農林部公主嶺農事試験場と改称する。
9月	大学の卒業生10数人を公主嶺農事試験場に配属させ、業務に就かせる。同時に各省農事試験場も科学技術員を増やす。
1950年 1月	東北人民政府農林部は「第2届農業技術推广工作会议」及び「第2届農業試験場研究工作会议」を開催する。蛤蟆塘農事試験場は遼東省鳳城農事試験場と改める。
7月	東北人民政府農林部公主嶺農事試験場は東北人民政府農林部農業科学研究所と改称される。略称は東北農業科学研究所となる。所長に唐川が、協理員に翟林が就任する。

(出典)楊志剛主編『吉林省農業科学院志』長春、吉林科学技術出版社、2008年、1154-1155頁、「關於各級農事試験場工作任务及業務計画的決議」『東北農業』2期、1949年、6頁、および前掲『東北区科学技術發展史資料』72頁、258-264頁より作成。『東北区科学技術發展史資料』には1948年秋に熊岳農林試験場を建設、1949年1月に公主嶺農業試験場が成立と記載されているが、それぞれ熊岳農事試験場、公主嶺農事試験場のことと思われる。

この経過をみると、東北行政委員会は北東部の佳木斯農事試験場(1946年11月)から、北西部の克山農事試験場と中部の公主嶺農事試験場(1948年6月)、そして最南部の熊岳城農事試験場(1948年秋)を完全に接収している。1948年秋に中共が全面的に勝利すると、1949年1月に東北行政委員会農業部公主嶺農事試験場が正式に成立した。

また東北行政委員会農業部と各省は嫩江省齊齊哈爾農事試験場(1950年末に園芸試験場となり農業部門は克山農事試験場と合併)、松江省呼蘭農事試験場(後に甜菜試験場と改称)、吉林

省龍井農事試験場（後に水田試験場と改称）、安東省通化農事試験場、五龍背蚕業試験場、鳳城烟草試験場、遼西省錦州農事試験場、遼北省虻牛哨農事試験場（後に培種場と改称）、東北行政委員会農業部遼陽綿作試験場、興城園芸試験場、鉄嶺種馬場等を設立・再建した¹⁷。

以下は主な満洲国立農事試験場の接収と再建に関わった人々の回想録である。

佳木斯農事試験場（劉慶恩）

1945年日本帝国主義が投降・撤退した時、元々あった設備と建物等の大部分は焼かれた。残った建物と物資、食糧、種子等は混乱の中で全て持っていかれた。1946年佳木斯市は鐘秀成同志を派遣し、この跡地に自給農場を設立した。1946年11月にこれを東北財經辦事処に引き渡し、唐川・陳重同志の責任によって佳木斯農事試験場は再建された¹⁸。

克山農事試験場（劉端生）

1948年6月黒龍江省建設庁は克山農事試験場の建設を始めた。当時、克山農事試験場の跡地は東北軍区医院によって使われていたため、建設活動をすすめることができなかった。李富春同志は李冷齋同志を綏化に派遣し、林楓副主席に跡地を克山農事試験場に返還するよう要求した。……1948年10月に東北軍区医院は全て移転し、建設活動は場内にてすぐに行われた。積極的に元の職員を召集し技術員を招聘して、1949年には圃場試験と良種の繁殖を始めた¹⁹。

熊岳農事試験場（鄭洪軒）²⁰

熊岳農事試験場の再建活動は1948年から開始された。私が試験場に到着した時、全試験場にはわずかに職員が100余人、そのうち技術員は10数名のみであった。当時は3名の党員のみで党支部を成立させて、私は書記を担当した。再建活動は目下の急務であったので人材を招聘して、試験材料を収集した。上級政府はいくつか技術幹部を送って、〔業務に〕就かせた……1948年の冬、試験材料を集めるために職員に号令を発したところ、当時一人の技術員は満洲国より遣された203個の水稻交雑品種系統を提出し、またある職員は満洲国期の当試験場のリングの部分系統図を提出した。これらの材料はどれも珍しく貴重なものであった。この外にまた各地より水稻、綿花、高粱、及びその他の作物品種あわせて2000あまりを収集した²¹。

公主嶺農事試験場（李成棟）

1949年1月中旬、唐川同志は私たちを伴って公主嶺にやってきた。一緒に来た者にはさらに東北農業部（引用者注：東北行政委員会農業部と思われる）が新しく雇用した同志たちがおり、あわせて20余人であった。また瀋陽にて接収した少量の試験器材も持参した……

部内にいる時、すでに聞いていたのは、満洲国期の公主嶺農事試験場はすでに堪えられないほど破壊されているということであったが、実際の状況は私が想像したものよりもっと厳しいものであった。全ての建築物の門や窓、床板等の木製部分は全て壊し尽くされ、多くの建物は屋根さえもなくなっていた。わずかにあった2棟の試験棟は、長い間地下室が水に浸かって、数年が経っていたため、建物の基礎はでこぼこになり、壁も分かれ目に沿って上下し、床板は亀裂が入って傾いていた。またある棟の壁には一本の大きな亀裂が入り、みるからにもうすぐ倒れそうであった。これが1931年に建てられ、国内外に有名であった公主嶺農事試験場とは思えないほど、ことごとく廃墟となっていた²²。

これらの回想録をみると、佳木斯、熊岳城、公主嶺の農事試験場はひどく破壊され、機材等の略奪があったことが確認できる。東北行政委員会は人材を派遣して、各地に散失した試験材料を収集し、元々勤めていた技術員等を招聘した。熊岳農事試験場では、技術員が所有していた水稻交雑系統等を利用し、再建が行われたようである。

1949年2月東北行政委員会農業部農事試験場場長会議では「關於各級農事試験場工作任務及業務計画的決議」が採択された。各級農事試験場の任務については、(甲)農業部直属公主嶺農事試験場を総合的な試験場とし、①満洲国期の農業研究と試験の成績を整理し、良いものは利用、悪いものは切り捨てること、②過去に未完成でかつ確かに価値のある各種試験研究を続けること、③すでにある研究試験業務の基礎をもとに目下及び今後の必要に基づいて、新たな研究試験業務を可能な範囲内で行い、急遽解決の必要な農業技術問題を解決すること、等が決められた²³。また、(乙)各省或いは各地の農事試験場は地区ごとにそれぞれ重視すべき点があるとして、その一般的な任務を、①満洲国にてすでに当地区に普及している優良作物品種と種畜を集め、雑駁性を取り除き、繁殖させ広めること、過去にすでに有効と証明された病虫防治法及びその他改良法等は、手段を講じて続けて利用、推奨すること、②当地の主要作物に対して品種改良及び栽培試験を行い、公主嶺及び付近の各場で行われる区域試験と歩みを合わせて、互いに協力し効果を得ること、等が決められた²⁴。

そうした決定の下、佳木斯農事試験場と公主嶺農事試験場の接収に関わった唐川²⁵という人物は「解放」時に元々いた技術員とすでに離れていた技術員、および少数の日本人技術員を留用し、あわせて大学を卒業した者も新たに採用した²⁶。1950年東北人民政府は唐川を関内に派遣して、関内の技術員を招聘した²⁷。関内ではかつて国民党が設立した農事研究機関が存在していた。中国人民政府は関内の農業関連施設の接収を行い、中国全土を東北、華北、華東、華中、華南、西南、西北に分け、各地に農業科学研究所を設立した²⁸。公主嶺農事試験場は東北人民政府農林部農業科学研究所と改称され、東北地方を代表する農業試験研究機関となり、所長に唐川が就任した。当研究所は東北地方各地に位置する農事試験場の上部機関として位置し、

満洲国期と同様、公主嶺が東北地方における農業技術研究の中心的な地になった。1953年に東北人民政府農林部農業科学研究所は東北農業科学研究所と改称された²⁹。1957年3月には中国全土の農業科学研究所を掌握する機関として、北京に中国農業科学院が置かれ、院長に丁穎³⁰が就任した。同年4月にこれら各地の農業科学研究所は中国農業科学院の指導下において研究を行うこととなった³¹。

東北農業科学研究所では満洲国期より遺された品種を利用し、農民や国内外からも品種を取寄せ、新たに生まれた優良品種を普及させていた。満洲国期から遺された品種には、陸羽132号、興亜、興国、弥栄、青森5号、小田代5号等がみられる【表3】。以下、各地の試験場における水稻品種の繁殖状況を確認できる。

【表3】各地の試験場における水稻品種の「良種繁殖」状況

黒龍江省克山農事試験場	坊主6号、早生富国、走坊主1号、豊穰	遼西省錦州農事試験場	なし
松江省呼蘭農事試験場	なし	遼北省虬牛哨農事試験場	なし
合江省佳木斯農事試験場	弥栄、興国、富国、国主（弥栄と富国が主）	嫩江省齊齊哈爾農事試験場	なし
吉林省九站農事試験場	なし	安東省五龍背蚕業試験場	なし
吉林省龍井農事試験場	興亜、小田代5号、青森5号、弥栄、当場にて選出の優良品種	安東省鳳城烟草試験場	なし
安東省哈蟆塘農事試験場	陸羽132号	遼陽綿作試験場	なし
安東省通化農事試験場	なし	興城園芸試験場	なし
遼寧省熊岳農事試験場	陸羽132号、農林1号		

(出典) 前掲「關於各級農事試験場工作任務及業務計画的決議」8-11頁をもとに作成。公主嶺農事試験場については「別紙に記載」とあるが、その資料の所在は不明である。

上記の試験場で繁殖された水稻品種に、朝鮮在来種は含まれていない。【表1】をみると、豊穰を除いたすべての品種が1943年に普及が目指されたものであった。中北部に位置する農事試験場で弥栄、興国、富国、小田代5号、青森5号などが、南部の農事試験場では陸羽132号、農林1号が良種として繁殖されていた。

3 研究成果の継承—満洲国立農事試験場から東北農業科学研究所へ

1節 研究書の利用と人材の活用

このように満洲国の奨励品種が各地で繁殖されただけでなく、試験場の技術員によっても満洲国の研究内容が利用された。公主嶺農事試験場編集の雑誌『農業技術通訊』の沈錦驊「東北水稻栽培法的研討」では、参考文献に満洲国の研究資料が多く使用されている。

【表4】沈錦驊「東北水稻栽培法的研討」に記載されている参考文献

1	伊藤栄之祐：満洲に於ける水稻栽培，338頁，満洲農事協会，大連，1931
2	黒澤謙吾：満洲の水田，188頁，満鉄農務課，産業資料第14号，大連，1932
3	外山二郎：満洲農業気象報告，124頁，満鉄農務課，産業資料第31号，大連，1934
4	満鉄農事試験場：創立二十周年記念農事試験業績熊岳城分場篇—水稻部，第181頁至234頁，1935
5	戸村一男：満洲に於ける水稻栽培法，68頁，偽満産業部資料第52号，長春，1940
6	公主嶺農事試験場：試験成績要覧農産篇—水稻部，第48頁至50頁，公主嶺，1941
7	熊岳農事試験場：試験成績抄録（種芸科）—水稻部，第5頁至34頁，熊岳城，1942
8	中村誠助，戸村一男，小島清重郎，佐佐木三男，荻谷正次郎：満洲水稻作の研究，265頁，満洲農学会，公主嶺，1943
9	磯永吉：増補水稻耕種法講演，417頁，附図29頁，台湾農会，台北，1944
10	松野傳：寒地稲作の発展動向，112頁，満洲開拓文化協会，開拓輔導叢書第九輯，長春，1945
11	北海道農業教育研究会：北海道の水稻栽培法，212頁，淳書文院，札幌，1944
12	Iso, E, Summary of The Studies on The Corrslation Phenomena among The Characters of The Rice Plants and its Applicatin in Practice PP.108, Taiwan, Agr. Res. Jnst., Bul. No.1, Taipeh, 1946

(出典) 沈錦驊「東北水稻栽培法的研討」東北人民政府農林部公主嶺農事試験場資料室編『農業技術通訊』1巻4期，1950年7月15日，147頁。書名やつづりに誤りがみられるが，当時の認識を明らかにするために引用内容と表記等すべて原文のまま記載した（ただし，漢数字は算用数字に統一した）。例えば，5に記載されている「偽満産業部資料」は「産業部資料」と原資料では記載されている。

『農試通訊』（1949年4月～）は1950年4月に『農業技術通訊』と改めた。

公主嶺農事試験場は，各試験場間および試験場と技術推広部門間の連絡を強化し，それぞれの研究状況と経験を相互に把握させるためにこの雑誌を出版した。

沈錦驊³²は1945年に国立中央大学農学院を卒業し，南京臨時大学と台湾の台中農学院にて教えた後，1950年に公主嶺農事試験場へ赴任した。沈はおそらく公主嶺に集められた書物を利用して「東北水稻栽培法的研討」を執筆したものと思われる。沈がどの程度日本語を理解していたか疑問も残るが，彼は引用書物の研究成果に言及し，高度に集約化された水稻の栽培技術が東北水稻作にて必須の研究目標となると述べていた。また，『農業技術通訊』の同号には永野義治（「東北普通作物目育苗種目標」），石山哲爾（「東北主要農作物病害（一統）」）など日本人の論考も載せられている。1950年には日本人技術者も研究雑誌に投稿しており，積極的に試験研究を行っていた³³。

2節 用語の統一

1951年，東北人民政府はかつて満洲国にて使われていた用語と，関内から招聘された人々の間で使われていた用語の統一を行っている【表5】。表中の「修訂試験名称」は東北農業科学研究所で新たに修正した試験名称を，「偽満試験名称」は満洲国の試験場で使われていた試験名称を，「関内試験名称」は関内の試験場で使われていた名称を指している。興味深いのは満

【表5】 東北区暫行作物育種試験名称

修訂試験名称		偽満試験名称		関内試験名称		備註
試験種類	試験名称	試験種類	試験名称	試験種類	試験名称	
品種試験	品種観察試験 品種比較初歩試験 品種比較試験	品種関係試験	品種特性調査 品種比較（選抜）予備試験 品種比較（選抜）試験		品種観察試験 二行、五行、十行試験 高級試験	凡異作物物 在雑交前需 進行自交者 可名為自交 系第〇代
雑交育種	人工雑交 雑交第一代培育 雑交第二代単株選抜 雑交第三代系統及単株選抜 雑交第四代（或以後）	交配育種	交配操作 雑種第一代養成 雑種第二代個体選抜 雑種第三代系統及個体選抜 雑種第四代以後系統育成	雑交育種	人工交配	
系統育種	系統育成（以後同）雑考系統比較初歩試験 雑交系統比較試験 単株（単穂単鈴）選抜	純系分離 系統分離	育成系統生産力検定予備試験 育成系統生産力検定試験 個体選抜試験	系統選種 （旧名純系育種）	二行、五行、十行試験 高級試験 単株（単穂単鈴）選種	
	系統選抜試験 系統比較初歩試験 系統比較試験		系統選抜試験 系統生産力検定予備試験 系統生産力検定試験		株行（穂行鈴行）試験 二行、五行、十行試験 高級試験	
区域試験	区域試験		品種地方適否試験		区域適応試験（或風土適応試験）	

（出典）東北人民政府農林部農業科学研究所農産系「1951年東北大豆小麦水稻技術會議總結」『東北農業』27期，1951年，28頁。

洲国期の用語も多く残され、それに倣ってより細やかな試験段階まで名称がつけられた点である。史料には、関内から呼び寄せた技術者との間で用語が混乱し、「極めて不便であったため」と理由が記載されている。ここでは満洲国期より遺された技術用語の一部を利用していた。満洲国期の試験名称が利用された点は、日本のみならず中国側にも1945年以前からの技術者が多く残っていたことが関係していよう。また、唐川が北平大学を卒業しているなど関内の大学出身者が東北農業科学研究所の頂点にいたことを考えてみても、満洲国期の技術用語が残されている点は大変興味深い。

『東北農業』では、1952年に東北地方の農業再建活動が完了し、混乱前の農業水準に回復し

【表6】主な水稻品種の変遷

<p>北海1号の誕生. 興国, 弥栄(満鉄「改良種」と交代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北農業科学研究所が樺川県の北海品種より選抜, 育成した³⁷. ・東北農業科学研究所が1953年に選出した北海1号は, 稈が強く, 肥料に耐え, 耐稲熱病性が高い. 生育期は115日前後で, 黒龍江省中部と東部地区の試験では興国, 弥栄等の品種よりも8~35%増産であった. 1957年無霜期130日地帯において興国, 弥栄品種に替わって推奨されることが決定した. 吉林省延辺輝春地区, 通化専区の間間区域も増産が顕著であり, 徐々に広く推しすすめられた. 吉林省の中部地区でも早熟品種とあわせて栽培することが可能である. 内蒙古の哲里木盟(ジェリム盟), 昭烏達盟(ジョウウダ盟)において〔種を〕持ち込み試作したが, それも増産であった.
<p>衛国の誕生. 陸羽132号(日本種)と交代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遼寧省熊岳農業試験站³⁸が農林7号と農林1号より交雑した後の世代から選抜, 育成した. ・1956年に推奨され始めた, 熊岳農業試験站が育成した新品種衛国は株が丈夫で, 分蘗力も比較的強い. 根は発達し, 密植に適し, 肥料に耐え, 容易に倒伏しない. 節稲熱病と穂頭稲熱病に耐え, 産量は安定する等の優良な特性を持つ. ただし幼苗期の耐寒力はやや弱い. 熊岳にて栽培すると生育期は陸羽132号に比べて3日早熟で, 17%前後増産であった. 土地が肥沃な地区では, 速やかに陸羽132号と替わり, 遼南地区の主要な栽培良種となった.
<p>寧豊の誕生. 農林1号と信友早生(日本種)と交代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遼寧省熊岳農業試験站が農林7号と亀ノ尾5号より交雑した後の世代から選抜, 育成した. ・1957年に推奨され始めた新品種寧豊は苗が丈夫で, 根が発達し, 葉幅は狭く直立しており, 分蘗は比較的少ないが, 有効分蘗率は高い. 稈は強く肥料に耐え, 容易に倒伏しない. 幼苗期に耐寒, 耐旱等の特長をもち, 生育期は137日から140日であった. 1953年から1957年までに瀋陽, 鉄嶺等の5つの県で区域試験を行った結果, 農林1号よりも16.8%増産であった. 1956年から1957年までに遼寧中部の14の県と市において大面積の生産対比試験を行ったところ, ここでも比較対象品種の農林1号よりも23%増産であった. 1958年に遼寧中部にて推奨され, 今徐々に農林1号と信友早生から替わりつつある. 遼寧中部の主要な推奨優良品種となった. その成熟期が比較的早いので, 南部でも衛国とあわせて栽培することが可能で, 時間と労力の矛盾を解決するのによい.
<p>公交6号, 公交7号, 公交9号の誕生. 石狩白毛, 井越早生(日本種)等と交代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1958年に東北農業科学研究所が生み出した公交6号は, 黒龍江省合江地区にて石狩白毛よりも7.5~10.3%増産であった. ・公交7号は東北農業科学研究所が1950年に豊稷と北海1号を用いて交雑, 育成した. ・公交7号は, 吉林省延辺試験站にて井越早生より13%増産であった. 黒龍江省合江地区において石狩白毛より8~18%増産であった. 内蒙古の哲里木盟において北海道(引用者注: 北海のこと. 朝鮮人農民は北海道と呼んでいた)より15.7%増産であった. ・公交9号は, 吉林省延辺試験站において井越早生より27.6%増産であった. ・1959年に公交6号, 公交7号を黒龍江省合江と牡丹江地区において試作を拡大した結果もまた大変良好であり, 無霜期が比較的短い地区において, 石狩白毛に替わって栽培を行うことが可能である. 公交7号, 公交9号は吉林省東部山間地区において当地の井越早生, 石狩白毛等の良種と替わって栽培を行うことが可能で, 模範栽培を行っている.
<p>公交10号と公交11号の誕生. 青森5号(日本種)と交代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公交10号は東北農業科学研究所が1950年に巴錦と青森5号を用いて交雑, 育成した. ・公交11号は東北農業科学研究所が1950年に巴錦と元子2号を用いて交雑, 育成した. ・公交10号, 公交11号の両品種は1955年から1958年まで吉林省公主嶺, 延辺, 通化, 舒蘭, 蛟河等の地において試験を行った. 公交10号は最も広く栽培されている当地の良種青森5号よりも7~14%増産で, 1~2日熟すのが遅かった. 公交11号は青森5号よりも7~16%増産で, 成熟期は青森5号と同じであった. 両品種は吉林省中部平原と延辺地区においてすでに徐々に繁殖され, 広く推しすすめられている. 青森5号に替わるものである.
<p>合江1号の誕生. 石狩白毛(日本種)と交代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1954年合江専区農業科学研究所が石狩白毛の品種中より選抜, 育成した. ・合江1号は早熟で稈は強く, 穂は大きく粒が多い. 耐病性は強い. 石狩白毛よりも10%増産である. 1958年に哈爾濱, 牡丹江, 合江地区にて石狩白毛に替わって推奨されることが決定した.

(出典) 前掲『中国水稻栽培学』279-284頁をもとに作成. 本表は引用部分で明確に「交代」(原文では代替)と記されている品種について記載した.

たと報じられている。東北農業科学研究所農産系では再建時より品種の改良に力を入れていた³⁴。1949年からの本格的な再建から3年を経て、東北農業科学研究所では新たな段階に入っていた。

3節 新たな水稲品種の誕生と品種の交代

東北農業科学研究所では従来の品種を普及させるだけでなく、1953年ごろより新たな品種も生み出していた³⁵。以下は中国農業科学院院長であった丁穎が編纂した『中国水稲栽培学』（農業出版社、1961年）による理解である【表6】。丁穎は東京と広東にて農学を学んだ人物であり、東北地方の水稲品種には精通していなかったと思われる。しかし、執筆者の一人として東北農業科学研究所にいた呉鴻元³⁶の名前がある。そこには誕生した品種の特徴と栽培品種がどのように変わっていったのか記されている。

東北農業科学研究所で育成された新品種の多くは、日本種や満鉄「改良種」が純系分離や交雑育成の基とされていた。また、多収性や耐肥性、耐病性が重視され、その比較対象にされたのも日本種や満鉄「改良種」であった。これは従来日本種や満鉄「改良種」が栽培されていた場所において、新品種との交代が目指されたためであろう。

『中国水稲栽培学』には、満鉄農事試験場が1910年代に持ち込みすでに満洲にて栽培されていた早生大野を1959年に朝鮮から東北地方に持ち込まれたとするなど、一部で誤りとみられる記述もある。そうした点が呉鴻元や丁穎らによって訂正されなかったことは、おそらく関内の大学と関係が深かった彼らの学術的な背景や、接収時に遺された断片的な記録をもとに水稲研究が行われたことも関係していると思われる³⁹。また、当時彼らは広大な東北地方を細部まで把握しきれていなかった可能性も存在する。

再建当初は満洲国期の奨励品種を繁殖し、日本種や満鉄「改良種」を選抜育成していた。また、交雑の親としても利用し、それらを比較の対象としていた。このような特徴と接収時の方針等をあわせて考慮すると、1950年代の東北農業科学研究所等では満洲国立農事試験場の研究内容と「成果」（水稲奨励品種）を一定程度引き継いでいたとすることができる。ただし本稿で明らかにしたように、再建時に試験場がひどく破壊されていたことや、関内の大学出身者も再建に加わって、品種に関する知識が一部で正確に伝達しなかったこと等を考慮してみると、山本氏が指摘した連続性だけでなく断絶面についても見落とされてはならないだろう。東北農業科学研究所等の技術者たちは精力的に満洲国期の遺産を利用し、関内の技術と折り合いをつけ再建活動を行っていたのである。彼らの活動は以後の東北農業研究において重要な位置を占めていった。

おわりに

本稿では、日本の侵略政策の一環として設立された満洲国立農事試験場が、中共により接收、再建された過程を確認した。接收後、公主嶺農事試験場等の技術員は各地に散らばってしまった機材や書物、人材などを集め、満洲国の技術用語の一部を残し、研究書を利用した。内戦のために廃墟と化していた試験場の再建から、3年程かかってようやく満洲国期の水準まで回復した。

水稻品種についてみると、満洲国によって1943年に奨励された品種の多くは、1949年以降も良種として繁殖されていたことが確認できた。公主嶺農事試験場の後身の東北農業科学研究所やその他の試験研究機関では日本種や満鉄「改良種」を純系分離や交雑育成の基として利用し、多収性、耐肥性、耐病性の強化を目指していた。これらに代わる新品種は1953年ごろより誕生した。かつて日本人開拓民が耕作した地区が1949年以降国営農場として再編され、水稻生産が積極的に行われていたことを考えると、集約農法に適した特徴を持つ新品種は十分な灌漑整備をもつ国営農場にて重点的に広められたものと思われる。再建、新品種育成に関わった技術員たちの貢献は大きく、それは現在の吉林省農業科学院においても共通の認識となっている⁴⁰。

最後に、本稿にて議論できなかった点に触れたい。それはソ連の専門家と中央人民政府農業部副部長楊顕東が、東北農業科学研究所等が育種事業に傾倒しすぎて、農業の実際とかけ離れていると指摘していた点である⁴¹。この問題の打開策の一つとしてメンデル・モルガン理論ではなく、ダーウィンの進化論を発展させたミチューリン理論による育種法が推奨され、東北農業科学研究所等では積極的にソ連の育種法を取り入れていくようになった⁴²。ただし、1950年代後半の新品種の誕生状況を見ても、ソ連の育種法の導入によって育種事業がどのような変化を経たのか、説得力のある分析は未だ十分にされていない。これらの点については、反右派闘争や大躍進運動の影響とあわせて、今後の検討課題としたい。

註

- 1 以下、煩雑をさけるため括弧をはずす。
- 2 本稿ではほかにも、朝鮮人農民に朝鮮半島から持ちこまれ、栽培されていた品種を朝鮮在来種、1945年以降は「改良種」を満鉄「改良種」と呼ぶ。満鉄「改良種」と呼ぶのは、東北農業科学研究所等で生まれた新品種と区別するためである。
- 3 衣保中『朝鮮移民与東北地区水田開発』長春、長春出版社、1999年、金額『近代東北地区水田農業発展史研究』北京、中国社会科学出版社、2007年、朴敬玉「近代中国東北地域における稲作農業の展開と朝鮮人移民：1920～1930年代を中心に」一橋大学大学院社会学研究科博士学位請求論文、2011年、等。また近年、1945年以降を視野にいたした稲作展開に関する新たな学会報告もなされた（李海訓「中国東北地方における寒冷地稲作の展開過程—1940年～1950年代を中

心に『第11回日中韓農業史学会国際大会 東アジアにおける欧米農学の受容と農業発展の課題』日本農業史学会, 2011年). 氏は, 中華人民共和国が朝鮮民主主義人民共和国との交流を行って品種や栽培技術習得の国際的展開を続けたこと, 耐肥性をもつ品種が東北地方に労働集約的農業を要求したこと等を指摘した.

- 4 湯川真樹江「満洲における米作の展開1913-1945—満鉄農事試験場の業務とその変遷—」『史学』80巻4号, 2011年.
- 5 山本晴彦「満洲における農事試験研究の歴史的検討と中国の農業技術高度化への正の遺産としての評価およびその現代的意義」財団法人 JFE21世紀財団「2006年度アジア歴史研究助成」2006年.
- 6 東北行政委員会公主嶺農事試験場は1949年に東北人民政府農林部公主嶺農事試験場と, 1950年に東北人民政府農林部農業科学研究所と改称された. 略称は東北農業科学研究所である.
- 7 今回, 檔案の使用ができなかったが, 武衡主編『東北区科学技術發展史資料 解放戦争時期和建国初期』(農業卷, 北京, 中国學術出版社, 1986年)には各種の關係檔案が掲載されているため, それを参考とした.
- 8 なお, この時期, 中国共産党(以下, 中共とする)と同様に国民党による接収も存在していたが, それについては本稿では取り扱わず, 稿を改めて考察したい.
- 9 これらの産業試験場は1918年に満鉄会社分掌規定改定に伴って, 農事試験場と改称された.
- 10 南満洲鉄道株式会社地方部地方課『南満洲米作概況』産業資料(其10)1918年, 108頁.
- 11 試験地設定時は56,555平方メートルであった.
- 12 玉真之介「戦時農政の転換と日満農政研究会」『村落社会研究』4巻2号, 1998年.
- 13 満洲国公主嶺農事試験場『試験成績要覧』1941年, 1頁. 支場には安東支場, 興城支場, 錦州支場, 熊岳城支場, 遼陽支場, 王爺廟支場, 哈爾濱支場, 佳木斯支場, 克山支場があった.
- 14 熊岳城会『熊岳城 会結成40周年記念』1986年, 192-195頁. なお, 本稿では煩雑を避けるため, 各軍の名称を中共軍, 国民党軍に統一した.
- 15 ある回想録によると, 1945年8月17日, 公主嶺本場に残っていた職員が集まって解散式をした. 突永場長は戦勝国に接収された場合, 「紳士的な接収が行われるだろうから, 器物その他を破壊しないように」と注意をし, 場員たちは學術資料, 備品などを整理し, ペン先一本に至るまで記載したという(公主嶺小学校同窓会『満洲 公主嶺過ぎし40年の記録』公主嶺小学校同窓会, 1987年, 460頁).
- 16 前掲『満洲 公主嶺過ぎし40年の記録』485-487頁.
- 17 前掲『東北区科学技術發展史資料』259-260頁
- 18 劉慶恩「党領導我們艱苦創業搞科研」前掲『東北区科学技術發展史資料』232頁.
- 19 劉瑞生「初創时期的克山農事試験場」前掲『東北区科学技術發展史資料』228頁.
- 20 1945年以前は熊岳城農事試験場と呼ばれていたが, それ以後しだいに熊岳農事試験場と呼ばれ

- ようになった。しかし熊岳城は駅名として現在も残っている。
- 21 鄭洪軒「解放初期熊岳農業試験場の恢復和重建」前掲『東北区科学技術發展史資料』196-197頁。
- 22 李成棟「關於公主嶺農事試験場の回憶」前掲『東北区科学技術發展史資料』238頁。
- 23 ほかに、④各省或いは各地の試験場と相互に協力し、技術上にて助けあい、指導を行うこと、⑤単独にて研究試験業務を行う能力のある技術幹部を一部育て、各級研究試験業務の人員を充実させることが決められた（前掲「關於各級農事試験場工作任務及業務計画的決議」6頁）。
- 24 ほかに、③技術経験のある幹部を一部育て、各県繁殖場と推奨活動における技術指導幹部を充実させることが決められた。（丙）では各県繁殖場についての決定が記載されている（同上）。
- 25 唐川（1910-2000）、湖南溆浦の人。中国共産党員。1935年に北平大学農学院を卒業。北平大学農学院助教、湖南長沙群治農商專科学校教員兼農場主任、広西農事試験場技士を歴任した。1939年に延安に赴き、陝甘寧辺区農校教員兼農場副主任、光華農場農芸組組長、辺区生産展覽籌備会副主席、辺区建設庁第一科副科長等の職に就く。1946年に東北に行き、東北局財經辦事処研究員、佳木斯農事試験場場長、東北行政委員会農業処秘書に就く。1948年公主嶺農事試験場場長、1953年東北農業科学研究所所長、党組書記、1959年に吉林省農業科学院院長、党委員会書記等に就く（以後の経歴は省略）。主に『小麦特性相關的研究』、『科学工作必須保持相對穩定』等を執筆し、『東北区科学技術發展史資料』を編纂した（前掲『吉林省農業科学院志』1107-1108頁）。
- 26 唐川「在解放了的土地上一回憶東北解放初期的農業科技工作（代序）」前掲『東北区科学技術發展史資料』4頁。
- 27 同上。
- 28 華北農業科学研究所の前身は北平農事試験場、華東農業科学研究所の前身は中央農業実験所、華中農業科学研究所の前身は湖北省農業改進所（1954年に改称される前は中南農業科学研究所と呼ばれた）、華南農業科学研究所の前身は広東省稲作改進所、西南農業科学研究所の前身は北碚農事試験場、西北農業科学研究所の前身は陝西省農業改進所である（劉志澄主編『中国農業科技之研究』北京、中国農業科技出版社、1992年、4頁）。
- 29 前掲『吉林省農業科学院志』序1頁。
- 30 丁穎（1888-1964）、広東茂名の人。1912年に公立両広優級師範学堂博物科を卒業後、1913年に日本へ留学した。1921年に東京帝国大学農学部に入學し、1924年に農学士の学位をえて卒業、帰国後広東公立農業専門学校（後に同校は国立中山大学農学院となる）にて教鞭をとる。1940年に国立中山大学農学院院長となり、1941年に国民政府農林部西南改良作物品種繁殖場場長、広東省糧食増産督導團副主任を任ぜられる。1949年に広州市各界人民歡迎解放軍入城式籌備委員会委員を務め、1950年に広州市人民代表、同年中山大学農学院院長となる。以後、華南農学院院長等に就任、1956年に中国共産党に加入。1957年から1964年まで中国農業科学院院長を務めた。主な著書に『我国的米問題』、『作物名実考』、『水稻特性調査与育種』等がある（徐友春

- 主編『民国人物大辞典』河北，河北人民出版社，2007年，3頁(ほか)。
- 31 前掲『中国農業科技之研究』5頁。
 - 32 沈錦驊(1923-1984)，浙江杭州の人。1945年南京にある国立中央大学農学院を卒業後，南京臨時大学，台湾省台中農学院にて教鞭をとる。1948年から1949年まで台湾大学農学院生物統計研究室にて学び，1949年に大陸に戻る。東北，長江流域と西南等各地区の農村調査研究に参加し，民衆がもつ水稲の高収穫経験をまとめあげ，知識として普及させた。1950年から1956年まで公主嶺農事試験場および東北農業科学研究所において松遼号(1号，2号，3号，4号，5号)と長白号(1号，2号，3号，4号，5号)等の早熟，高収量，耐病性をもつ粳米品種系統の育成に関与し，東北と西北の稲作区域にてこれらを普及させた。1956年に中国農業科学院に移る(1957年3月に中国農業科学院が設立される)。作物育種栽培研究所が設立された後，1984年に逝去するまで水稲遺伝育種と生物統計分野の研究を行った。『遺伝学報』，『作物学報』，『中国農業科学』等の著名な学術刊行物に論文が数十篇掲載されている。(『所志』編纂委員会編『中国農業科学院作物育種栽培研究所所志』北京，中国農業科学技術出版社，2007年，287頁)。
 - 33 山本前掲論文33-34頁。
 - 34 李森林「東北農業科学研究所在前進中」『東北農業』22期，1951年，74頁。
 - 35 公主嶺農事試験場は東北人民政府農林部農業科学研究所と1950年に改称されているが，下部機関には各地の農事試験場が存在していた。この時点で略称として東北農業科学研究所という名称が使用されており，以後の新品種紹介はこの機関によってなされることがある。このことから各地の農事試験場の成果は上部機関である東北農業科学研究所(公主嶺)の成果として認識されていたものと考えられる。
 - 36 呉鴻元(1907-1979)，江蘇句容の人。中国共産党員。1935年南京中央大学農学院卒業。湖南省農業改進所にて勤務していたが，1950年に東北農業科学研究所に異動した。農産系代理系主任，稲作組組長，作物育種遺伝研究室主任，水稲研究所副所長等を歴任した。『吉林水稲栽培』，『東北水稲栽培学』，『中国水稲栽培学』等の著書を執筆，編纂した(前掲『吉林省農業科学院志』1110頁)。
 - 37 北海一号は東北行政委員会佳木斯農業試験場(引用者注：佳木斯農事試験場と思われる)が，1947年に農家所有の北海道品種より選びだした単株を東北農業科学研究所において選抜育成した(呉鴻元「東北的水稲新品種」『東北農業科学通報』1958年2号，10-11頁)。また，1953年に北海一号は選出された(前掲『中国水稲栽培学』281頁)。このことから，1950年に北海一号を用いて交雑育成し，公交7号が生み出されたとあるのは，おそらく東北農業科学研究所において選抜育成されていた頃の北海と思われる。呉の記述の各所にやや不明瞭，不正確な部分が見られる。
 - 38 遼寧省熊岳農事試験場のことと思われる(以下同)。
 - 39 前掲『中国水稲栽培学』280頁。

- 40 前掲『吉林省農業科学院志』5頁. とくに唐川に対する評価が高い.
- 41 東北農業科学研究所編『中央農業技術考察団 対東北農業試験研究工作提供的意見(内部参考材料)』刊行地不明, 東北農業出版社, 刊行年不明. 資料中の各種報告日は1952年7月~8月である.
- 42 メンデル・モルガン理論は植物の純系の遺伝子が代々受け継がれると考え, 環境の変化により得られた形質(獲得形質)が遺伝することを認めなかったのに対し, ミチューリン理論は純系の遺伝子の存在を否定して, 獲得形質が次の世代へ遺伝することを主張した. ミチューリン理論は環境が与える影響を重視していたため, 農業の実際に沿った育種方法であると考えられていた.

The Change of Rice Varieties in the North-eastern Parts of China and the Takeover of Agricultural Facilities in Manchukuo : Focus on the Takeover and its Rebuilding by the Chinese Communist Party

YUKAWA Makie *

Abstract

This paper investigates how rice varieties changed in the Northeastern part of China from the 1940s to 1960s. Japanese engineers brought Manchuria Japanese rice varieties there and developed them. During the 1930s, they developed anti-freezing varieties of rice out of conventional materials and spread them as well as other Japanese rice varieties. This study also explores the takeover of agricultural facilities in Manchukuo, built originally in 1913, used by the Manchurian Rail Company of Agricultural Experiment. .

Many studies were conducted on rice plantation in Manchuria before 1945 but very few of them were mentioned about One organization ‘東北農業科学研究所’. This organization launched by the People’s Republic of China called ‘東北行政委員会公主嶺農事試験場’ back in 1950, had chosen, developed and disseminated Japanese varieties.. In this report, I try to explore how the Japanese varieties were treated in Northeastern China.

My research revealed that Japanese varieties were continuously spread after 1945. In particular, such anti-freezing varieties, as Kokoku (興国), Koua (興亜), Iyasaka (弥栄), and Hukoku (富国), spread widely. After the 1950s, ‘東北農業科学研究所’ successfully developed a variety of rice that yielded higher harvest than the Japanese one. In terms of the feature of its varieties, ‘東北農業科学研究所’ produced anti-freezing varieties of rice as well. Based on this finding, I would like to argue that they accepted and developed some varieties of rice from Manchukuo and rebuilt agricultural facilities that were destroyed during the civil war.

Keywords

Agricultural Facilities, Manchukuo, Rice Varieties, Rebuilt Chinese Communist Party

* Correspondence to: YUKAWA Makie
Graduate School of Literature, Keio University
2-15-45 Mita, Minato-ku, Tokyo, 108-8345 Japan
E-mail: yukawamakie12@yahoo.co.jp

